

---

栄養療法を適正に行うためには、経口栄養・経腸栄養法のいずれにおいても排泄ケアのリスクマネジメントをしっかりと行うことが重要です。

消化管は栄養素の消化と吸収を司る臓器であると同時に最大の免疫器官です。特に大腸は400種1000兆個以上ともいわれる腸内細菌がヒトと共生しており、短鎖脂肪酸などの有用物質を産生し、ヒトの栄養状態や健康状態に深く寄与しています。つまり、健全な腸内環境の構築と適正な栄養療法は密接に関係していると言えます。

本シンポジウムでは、排泄ケアの中でも特に、健全な腸内環境構築に重要な『排便』に焦点を絞り、排便異常に対するリスクマネジメントをそれぞれの職種立場から報告をいただきます。病態に応じた栄養管理、介護施設や在宅における排便コントロールなど、日々の臨床の中で実践している症例や対応について発表・議論いただき、安全管理についての意識向上に寄与することを目指します。